



# かわしま

mail:y3kawash@edu.city.yokohama.jp

http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawashima/

学校だより冬休み号  
平成19年12月21日  
横浜市立川島小学校  
校長 小池 慎一  
TEL 371-0757  
FAX 381-7248

## ことしいちねん 今年一年のまとめにあたって

学校長 小池 慎一

あした とうじ ふゆやす はい こうき はんぶん す  
明日は冬至、そして冬休みに入ります。後期のおよそ半分が過ぎました。  
さまざま ぎょうじ じゅぎょうさんかん がくしゅうこうりゅうかい おお ほごしや ちいき みなさまがた きょうりよく しえん  
様々な行事や授業参観・学習交流会など、多くの保護者・地域の皆様方のご協力・ご支援  
のおかげで今日を迎えることができました。ありがとうございます。

へいせいじゅうきゅうねんしがつにじゅうよっか ぜんこく いっせい じっし ぜんこくがくりよく がくしゅうじょうきょうちようさ  
さて平成19年4月24日に全国で一斉に実施された「全国学力・学習状況調査」に  
ついでの結果が10月下旬文部科学省から発表されました。

ほんこう しがつにじゅうよっか ろくねんせい じどう たいしよう じっし ごがつ こうない しゅうけい お ぐたいてき  
本校でも、4月24日、6年生の児童を対象に実施し、5月には校内の集計を終え、具体的  
な本年度の学習指導の重点を考え、これまで、教職員全体で指導に取り組んできました。

じゅうがつげじゅん もんぶかがくしよう はっぴよう ぜんこく へいきんせいとりのつ こくご さんすう しゅ  
10月下旬に文部科学省から発表された全国の平均正答率をみると、国語・算数ともに、主  
として知識の定着をみるA問題の正答率は80数%、主として活用をみるB問題は正答率  
60数%と、活用する力に課題のあることが、新聞等で報道されていました。

ほんこう ろくねんせい ぜんこく どうよう けいこう しめ がくしゅうじょうきょう せいかつしゅうかん  
本校の6年生も全国とほぼ同様の傾向を示しております。このたび、学習状況や生活習慣  
等についての本校の課題と今後の取り組みについて概要としてまとめましたので、次ページ  
以降でお知らせいたします。今後も、引き続きこの概要の中に示しました方針にもとづき、確かな  
学力の向上を目指してより一層の指導の充実に取り組みでまいりたいと考えております。  
みなさまのご理解とご支援をお願いいたします。

がくりよく ちょうしょく はやねはやお いったい そうかんかんけい しんぶんなど ほうどう  
これまでも学力と朝食や早寝早起きには一定の相関関係のあることが新聞等で報道さ  
れてきていますが、今回の調査でも同様の関係のあることが分かってきました。

こどもたちの生活の様子について、さらに今回の調査の結果を詳しく見てみると、新聞やテ  
レビのニュース、世の中の出来事に関心がある子どもたちは正答率が高い傾向が読み取れます。

また、本校の子どもたちは、全体的に見ると家族との会話が少ない傾向にあるように思えます。

ふゆやす かぞく きかい たくさん たくさん たくさん  
冬休みは家族のふれあいができる機会が多くあります。お子さんと、ふだんのお子さんの生活  
のことやニュースのことなどを話題にして、話をするのもよいのではないのでしょうか。

とし おと ねが  
みなさまによい年が訪れますことを願っております。

# 全国学力調査結果概要

## 1. 教科学習状況調査結果

◇：よい状況と考えられる内容

◆：改善が必要と考えられる内容

### 国語

国 語 A	調査の主旨	基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能が身に付いているかどうかをみる。
	本校の傾向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般的にほぼ全国平均と同じような傾向にある。</li> <li>◇ 漢字を正しく読むこと</li> <li>◇ 接続語や指示語を正しく使うこと</li> <li>◆ 要点をメモしながら聞くこと</li> <li>◆ スピーチでの聞き手にとって、わかりやすい話し方を選択すること</li> </ul>
国 語 B	調査の主旨	基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる。
	本校の傾向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般的にほぼ全国平均と同じような傾向にある。</li> <li>◇ 司会者の進行のよいところを書くこと</li> <li>◇ 客に対する勧誘の表現や敬意表現を適切に用いること</li> <li>◆ 取り上げた事実を的確に読み、理由を要約すること</li> <li>◆ 文章とグラフにまとめられた事実を関係付けて読むこと</li> </ul>

### <今後の取り組み>

- 「話す」ことについては、国語の学習だけでなく、他の教科や活動の中でも「発表する」場面で必要に応じて聞き手を考えたメモを用意するように、指導を重ねていきたいと考えています。
- 文章の観点に沿って大事なことを取り出し、気づいたことや考えたことを簡単にまとめたり、箇条書きにしたりする経験を増やしていくことが必要だと考えています。
- 書かれている文章について、段落と段落の相互関係や文章全体の構成をおさえて、目的に応じて整理して要点を書くようにする活動を増やしたり、登場人物の言動から心情や性格などをより多面的にとらえたりする活動を増やしたいと考えています。
- 漢字については、読むことに比べ書くことの習得率が低いため、文を書くときに漢字を意識的に使うことや、同音異義語や類似した字形の漢字を区別して使う指導を、繰り返し重ねていきたいと考えています。

# 算数

算数 A	調査の主旨	数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる。
	本校の傾向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全般的にほぼ全国平均と同じような傾向にある。</li> <li>◇整数、小数、分数の四則計算</li> <li>◇三角形や平行四辺形の性質の理解</li> <li>◆問題文から式を考えること</li> <li>◆分数や整数、小数などの数の意味や大きさの理解</li> </ul>
算数 B	調査の主旨	数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる。
	本校の傾向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全般的にほぼ全国平均と同じような傾向にある。</li> <li>◇棒グラフから数量の大小や変化の様子をよみとること</li> <li>◇面積を求める公式を使って問題を考えること</li> <li>◆問題場面から必要な情報を取り出して問題を解いたり、その根拠を明確にして説明したりすること</li> <li>◆計算の工夫を理解し、その計算方法を説明すること</li> </ul>

## <今後の取り組み>

- 数量の関係をつかむために、問題場面を図や具体物で表したり、簡単な数値に置き換えて考えたりする過程を大切にするようにします。また、身のまわりの事象と算数での学習内容を結びつけたりするような活動を取り入れた授業展開を一層多くしていきたいと考えています。
- 計算のしかたを考えたり、計算を工夫したりできるようにするために、計算の順序やきまりについての理解をより一層深め、例えば100を25の4倍の数、50の2倍の数、20の5倍の数のように多面的に見ることができるようしていきたいと考えています。
- 条件を整理し、筋道立てて考える態度を育て、伴って変わる数量の関係をしっかりつかむことができるようにするために、自分でデータを集めてそれらを表やグラフにまとめる活動を、算数だけでなく他の教科や活動の中でも取り入れるようにしていきたいと考えています。
- 図形の面積について、公式を確実に使えるようにするために、公式が導き出される過程を大切にするとともに、与えられた数値で求めるだけでなく、自ら必要とする数値を読み取るような活動を取り入れるなどし、面積についての理解を一層深めるようにしていきたいと考えています。

## 2. 質問紙調査結果

調査の主旨	児童の学習意欲、学習方法、生活の諸側面等の状況をつかむ
生活に関連すること	○朝食を毎日・ほぼ毎日食べていると答えた児童が97%と全国よりもやや高い。 ○就寝時刻・起床時刻がどちらも遅い傾向にある。
学習に関連すること	○家庭での学習時間について、長短両極化している傾向にある。 ○学校の授業の予習や復習・宿題をしている児童の割合は少ない。 ○自分の興味のあることについて、調べたり勉強したりしている児童の割合は多い。
自分を取り巻く環境	○学校で友達に会うことを楽しみにしている児童が多い。 ○地域への関心が薄く、地域行事への参加や地域の人との関わりが薄い傾向にある。 ○海・山・湖・川などで遊んだ経験や魚や貝や昆虫を捕まえた経験が全国に比して多い。
自分に関すること	○「自分には、よいところがある」「夢や目標を持っている」と答えた児童の割合は少ない。 ○ものごとを最後までやり遂げてうれしかった経験は、全国に比して多めの傾向にある。

### <今後の取り組み>

- 生活リズムについては、家庭科や保健の学習の中で、よりよい生活習慣について考え、実践できるよう支援していくとともに、学校だよりや学校保健委員会などを通して、ご家庭での協力も呼びかけていきます。
- 学習については、例えば1日30分～1時間程度でも毎日続けている児童の正答率が高い傾向にあることから、こうした学習習慣が身につくような宿題や家庭学習の課題設定の工夫などに生かしていきたいと考えています。
- 地域や人との関わりでは、例えば学援隊の方や学校に関わるボランティアの方との交流を今後も継続し、地域や大人との「関わり方」も学習できるようにしていきたいと考えています。また、地域行事への参加の呼びかけを一層進めていくようにします。
- 子どもたちの「生き方」を確かなものにするために、学習や行事などの場面で、具体的な成就感を味わいやすい目標を一つひとつ達成させるような指導をさらに進め、子どもたちがお互いのよさを認め合ったり、励まし合ったりできるような学級づくりを基盤に、自信をもって物事に取り組めるような人づくりを目指していきたいと考えています。